

(報道資料)

**燃料電池式アルコールセンサー「アルブロ（FC-1000）」が  
全日本トラック協会「安全装置等導入促進助成事業」対象機器に  
1台あたり1万円の助成で、運送事業者の導入負担を軽減**

2013年8月1日

株式会社タニタ

健康をはかるリーディングカンパニーである株式会社タニタ（東京都板橋区前野町1-14-2、社長・谷田千里）が販売している燃料電池式アルコールセンサー「アルブロ（FC-1000）」が、公益社団法人全日本トラック協会が実施する「平成25年度安全装置等導入促進助成事業」の対象機器になりました。事業用トラックの交通事故防止を目的に、同事業が普及を促進する安全装置の一つである「IT点呼に使用する携帯型アルコール検知器」<sup>※1</sup>の対象となったもので、Gマーク<sup>※2</sup>認定事業所での導入が条件となります。交付される助成金額は、アルコールセンサーの導入1台あたり1万円。「アルブロ（FC-1000）」は販売価格が3万9900円（消費税込み）ですので、同事業の活用により、1台あたり3万円以下で導入することが可能となります。申請窓口は各都道府県トラック協会。

飲酒運転に起因する交通事故の増加を背景に、2011年5月に自動車運送事業者の点呼時アルコール検知が義務付けられました。これに伴って運送事業者におけるアルコールセンサーの導入が進む中、どこでも誰でも使用できる利便性の高さや計測結果の正確性、ランニングコストの低減などを求める声が高まってきました。「アルブロ（FC-1000）」は、こうしたニーズに応え、精度の高い燃料電池式を採用しながら、導入コストを抑えたプロフェッショナル仕様の商品として、2013年2月に発売しました。ハンディタイプで場所を選ばず計測できることから、今回の助成対象となっている遠隔地での点呼時アルコールチェックはもちろん、小・中規模事業所では据え置き機としても運用されるなど、利用が進んでいます。

タニタは1999年に家庭用のアルコールセンサーを発売して以来、これまでに100万台以上の販売実績があります。「アルブロ（FC-1000）」は家庭用の使い勝手の良さはそのままに、プロの使用に耐え得る高精度と高品質を実現しました。10万円以上の商品が主流となっている燃料電池式でありながら、3万円台という低コストで導入できるという点も大きな特徴です。今回、「安全装置等導入促進助成事業」の対象機器になったことで導入コストがより抑えられることから、普及にさらなる弾みがつくとみています。タニタでは、同事業の適用による「アルブロ（FC-1000）」の普及促進をはかり、事業用



トラックの安全な運行に貢献していきたいと考えています。

- ※1 携帯電話、スマートフォンなどを使用して、遠隔地での計測と管理が行える携帯型のアルコール検知器
- ※2 公益社団法人全日本トラック協会が、運送事業者の安全性に対する法令の遵守状況、事故や違反の状況、安全性に対する取り組みなどを評価し、認定、公表する制度



**全日本トラック協会「安全装置等導入促進助成事業」対象機器になった  
燃料電池式アルコールセンサー「アルプロ（FC-1000）」**

報道資料に記載されている情報は発表日現在のものです。このため、時間の経過あるいは後発的なさまざまな事象によって、内容が予告なしに変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。